

4、開會の辭

渡國軍

果

機關説の論題の内容は避ける然し斷じて見逃かす事の出来ざる一事がある即ち社會の組織が何故この進める天皇機關説の上に樹てられたか、吾々は機關説を繞つて之を批駁する上層階級によつて日本の政治、經濟が支亂されてゐることを知る。源順朝は大皇をローマ法皇の如くに考へ徳川は又臣下如くにさへ見たのである。吾々の過去の支亂者は利潤を考へそれが日本の經濟なりと承認した、源順朝は大皇をローマ法皇の如く解釋し一つの道具、、、注意、、、伊エ問題からその波及は日本の將來を決するものではないかと言ふ國際新情勢が生れて來てゐる。三十年來の國を擧げて非常時に臨んでゐる時未だ機關説でこたへたこの不慮を見せつけられてゐる政治家は丑、一五事件以後學國一致せりと言ふか、國民の意

志を代表したのではない、獨裁政治プロックは日本の進出を妨害してゐる。永田事件も裏に濁つた或るものがあつたからた、軍部政治經濟に流れる不純な思想は平の將門の抱ける思想と何等變らぬ。機關説問題は此の僞善去らんとしてゐる凡ゆる逡巡の一切を超越して決意せねければならぬ、濁れる思想に對し命を忘れて闘す。

5、演説

○佐賀縣層津

高田光夫

伊エ問題は再び第二の世界大戰を捲起さんとしてゐるか要するに之は有色人種と白人種の戦である。有色人種を代表する日本は一体どうか、吾々は昭和維新の即時斷行を呼ぶ、外患に先立ち内患を取除かねばならぬ、具体的組織に對しては言論の自由を持たぬから言へぬ。三十年間日本の魂は眠つてゐ